

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B1)

(11) 特許番号

特許第6082905号
(P6082905)

(45) 発行日 平成29年2月22日 (2017.2.22)

(24) 登録日 平成29年2月3日 (2017.2.3)

(51) Int. Cl.	F 1
A 4 1 B 9/06 (2006.01)	A 4 1 B 9/06 D
A 4 1 C 1/00 (2006.01)	A 4 1 B 9/06 C
	A 4 1 C 1/00 E
	A 4 1 C 1/00 Z
	A 4 1 B 9/06 B

請求項の数 3 (全 7 頁)

(21) 出願番号	特願2016-81512 (P2016-81512)	(73) 特許権者	501326218
(22) 出願日	平成28年3月30日 (2016.3.30)		與芝 和子
審査請求日	平成28年6月6日 (2016.6.6)		東京都板橋区徳丸4-31-26-302
早期審査対象出願		(72) 発明者	與芝 和子
			東京都板橋区徳丸4-31-26-302
		審査官	新田 亮二

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 体形補整衣類

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

上半身の体形を補正する為の衣類であって、前身頃に胸部全体を覆う胸部パッドと、前記胸部パッドの中央部に結合される胸部中央パッドとを設け、前記衣類の、脇の下袖ぐり部から裾部に渡る体幹側面に対応する部位に調整部を設けた体形補正衣類。

【請求項 2】

前記調整部は前記前身頃に結合される面ファスナーループ側と、後ろ身頃に結合される面ファスナー鉤側とで構成されている、請求項 1 に記載の体形補正衣類。

【請求項 3】

前記前身頃と前記後身頃の袖ぐり部の裏面に、滑り止めテープが結合されている、請求項 2 に記載の体形補正衣類。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、上半身に着用して体形を補整する男性用の衣類に関し、特に近年飲酒等による肥満傾向の男性には胸囲が女性乳房化する傾向がみられ、このような男性にとって、着やすく、窮屈感がなく乳房を筋肉に見せるよう着用状態で体形を補整するための衣類に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、男性用上半身の下着といわれる衣類は、丸首シャツ、Uネックシャツ、Vネックシャツなどが一般的であり、その役割は冬期においては保温機能を有し、夏期においては吸汗性、速乾性などの機能を有している。

【0003】

これらは主に収縮性のある素材で作られ、着脱は裾部からなされている。
下記特許文献1に記載の「男性用上衣及びこれに用いられる補強パッドの製造方法」は、「大胸筋の貧弱な男性の外面を筋肉形の外様のように見えさせるため」のものと記され、胸部に補強パッドを埋込固定して、逞しく見せるものである。

【0004】

下記特許文献2に記載の「体形補正用下着」は、「特に贅肉が付き易い例えば下腹、脇腹、腰回り等の贅肉を引き締めて体形を整え」と記され、下腹、脇腹、腰回り等の体形は補正されているが、胸部はその対象とはなっていない。

また、[考案の実施の形態][0009]では、「前身頃1Aは胃部9から腹部3、左右の脇腹2, 2に相当する部分が非伸縮布10Aに形成されるほかは伸縮布10Bにより形成される」と記され、胸部10Bは伸縮布で形成されていて、胸部を目立たなくするための機能は有していない。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献1】特許文献特開平11-50309

【特許文献2】実用新案登録第3077397号

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

近年、飲酒等による肥満傾向の男性には、胸部が女性乳房化する傾向がみられ、その割合は増加傾向を示している。そのような男性にとって、夏期は薄着になることが余儀なくされることから、胸部が目立たぬよう衣類の選択には人知れず頭を悩ませてきた。

女性乳房化した胸部を筋肉に見せ、男性らしい体形が保持でき、人目を気にせず堂々とTシャツ等が着られるような体形補整衣類を従来から求められていた。

【0007】

また、女性乳房化した胸部を目立たぬよう、かつて体形を隠すため猫背ぎみだった姿勢を正し、胸を張って堂々と闊歩できるような体形補整衣類を従来から求められていた。

【課題を解決するための手段】

【0008】

本発明の男性用体形補整衣類は、女性乳房化した胸部をカモフラージュするため、胸部全体を覆う胸部パッドを用いて体形を補整するが、胸部が筋肉に見えるよう一定の厚みを保持し、非収縮部材で構成されている。

【0009】

胸部パッドを配した前身頃の中央部には、左右乳房の間の段差を埋めるため、胸部中央パッドを設け、胸部パッドに結合されている。

【0010】

左右脇の下袖ぐりから裾部にわたる体幹側面には、前身頃と後身頃が分離できるよう前身頃調整部と後身頃調整部を設け、着用者の胸囲や背中を体形に合わせて着用状態で固定することを可能とした。

前身頃調整部は、面ファスナーループ側で構成され、前身頃に結合されており、後身頃調整部は、面ファスナー鉤側で構成され、後身頃の裏面に結合されている。

【0011】

本発明の男性用体形補整衣類に用いる部材は、胸部パッドと胸部中央パッドに非収縮部材を用いて乳房の存在を抑え、後身頃全体には収縮部材を用いるが、背面には後ろ身頃より緊締力の強いパワーネットを交差して結合され、かつて猫背ぎみだった男性の姿勢を緊

10

20

30

40

50

締力がカバーして、美しく補整することができる。

また、前身頃と後身頃の袖ぐりの裏面には、肌に密着して固定できる滑り止めテープが結合されている。

【0012】

着脱は、左右のどちらか自分のしやすい側の調整部で行い、前身頃調整部の面ファスナー側と、後ろ身頃調整部の面ファスナー鉤側を用いて行い、胸囲や腹囲・背中をパワーネット等の緊締力を利用して袖ぐり部を肌に密着させ、思い通りの好みの体形に補整することを可能としている。

【発明の効果】

【0013】

本発明を実施することにより、飲酒等による肥満傾向の男性が、女性乳房化した胸部を筋肉に見せることができ、人目を気にせずTシャツ等好みの衣服を着用することができる。

【0014】

また、胸部全体を覆う胸部パッドと背面に結合したパワーネットにより、女性乳房化した胸部を筋肉に見せる事で、かつて体形を隠すため猫背ぎみだった姿勢を正すことができ、胸を張って堂々と闊歩することができる。

【図面の簡単な説明】

【0015】

【図1】本発明の実施例斜視図

【図2】本発明の実施例側面図

【図3】本発明の実施例胸部パットの断面図

【図4】本発明の実施例体幹側面を裾部から見た断面図と拡大図

【図5】本発明の実施例背面図

【発明を実施するための形態】

【0016】

図1乃至図5を用いて本発明の実施例を説明する。

本実施例は、図1に上半身の男性用補整衣類1、前身頃2、袖ぐり3、滑り止めテープ4、脇の下袖ぐりから裾部にわたる前身頃調整部5、胸部パッド6a~6c、胸部中央パッド7を斜視図で示し、図2に前身頃調整部5、後身頃8、後身頃調整部9を側面図で、図3に胸部パッド6、胸部中央パッド7を断面図で、図4に前身頃2、前身頃調整部5、後身頃調整部9を断面図で、図5に袖ぐり3、滑り止めテープ4、後身頃8、背面パワーネット10、裾部11を背面図で示している。

なお、前記前身頃調整部5と前期後身頃調整部9は左右に設けられており、ここでは左右双方の説明は省き、一方の説明に代えたい。

【0017】

【図1】の前記前身頃2には、胸部全体を覆う前記胸部パッド6を設け、筋肉に見えるよう一定の厚みを保持し、非収縮部材を用いている。前記胸部パッド6には、a、b、cの区分を設け、a部は厚めに、b部は薄めに、c部は厚めにして筋肉に見えるよう部位別に効果を持たせている。

【0018】

【図1】と【図3】の前記胸部パッド6の中央部には、前記胸部中央パッド7を設け、左右乳房の段差を筋肉に見えるよう一定の高さを保持して、前記胸部パッド6に結合されている。

【0019】

【図1】の前記前身頃2と【図5】の前記後身頃8の袖ぐり3の裏面には、肌に密着して固定できる滑り止めテープ4が結合され、かつ前記前身頃調整部5と前記後身頃調整部9に結合されている。

前記滑り止めテープ4は、例えば径が1マイクロメートル以下のポリエステル系で作られた滑りにくい特性の布又は不織布で、肌に密着することにより胸部が固定できる。

10

20

30

40

50

【 0 0 2 0 】

[図 1] と [図 2] 、 [図 4] の前記前身頃調整部 5 は、前記前身頃 2 に結合されているが、前記後身頃 8 に結合されている裏面の前記後身頃調整部 9 とは分離している。

【 0 0 2 1 】

体形の補整は、前記前身頃調整部 5 の面ファスナーループ側と、前記後身頃 8 の裏面に結合されている前記後身頃調整部 9 の面ファスナー鉤側でなされるが、着用して自分の体形に合わせるには、前記後身頃調整部 9 の面ファスナー鉤側を前方に引っ張って、前記前身頃調整部 5 の面ファスナーループ側に押し当てて固定することでなされる。

また、この上に着用する衣類の損傷を防ぐため、前記前身頃調整部 5 には表面が柔らかい面ファスナーループ側を使用し、前記後身頃調整部 9 には表面が固い面ファスナー鉤側を使用することが望ましい。

10

【 0 0 2 2 】

前記前身頃調整部 5 は、面ファスナーループ側で前記前身頃 2 に結合されているが、必ずしも面ファスナーに限ったことではなく、フック留め等を用いることもできる。

【 0 0 2 3 】

前記前身頃 2 に結合されている前記前身頃調整部 5 と、前記後身頃 8 の裏面に結合されている前記後身頃調整部 9 は、分離可能として構成されているが、素材の収縮性を利用すれば必ずしも分離可能とはせず、どちらか一方の前記前身頃 2 と前記後身頃 8 が結合されていても良い。また、前記前身頃 2 と前記前身頃調整部 5 、前記後身頃 8 、前記後身頃調整部 9 は、腹囲にかかる裾部 1 1 までの長さを有している。

20

【 0 0 2 4 】

[図 5] の前記後身頃 8 は収縮部材で構成されているが、背面パワーネット 1 0 は、前記後身頃 8 に比べて緊締力が強く前記後身頃に交差して結合されており、かつて体形を隠すため猫背ぎみだった男性の姿勢を緊締力がカバーして、美しく補整することができる。

【 0 0 2 5 】

着脱は、左右のどちらか自分のしやすい体幹側面で行い、前記前身頃調整部 5 の面ファスナーループ側と、前記後身頃調整部 9 の面ファスナー鉤側を用い、前記胸部パッド 6 と背面パワーネット 1 0 の緊締力を利用して、着やすく、窮屈感がなく思い通りの好みの強さでピッタリ固定することを可能としている。

また、着脱に使用しないもう一方の体幹側面調整部は、一度体形に合わせて固定すれば、再度調整する必要はない。

30

【 符号の説明 】

【 0 0 2 6 】

- 1 男性用補正衣類
- 2 前身頃
- 3 袖ぐり
- 4 滑り止めテープ
- 5 前身頃調整部
- 6 胸部パッド
- 7 胸部中央パッド
- 8 後身頃
- 9 後身頃調整部
- 1 0 背面パワーネット
- 1 1 裾部

40

【 要約 】

【 課題 】 近年、肥満傾向の男性には、強部が女性乳房化する傾向がみられ、その割合は増加している。その様な男性にとって、乳房を目立たなくして、しかも胸部を筋肉に見られる様な衣類が求められていた。

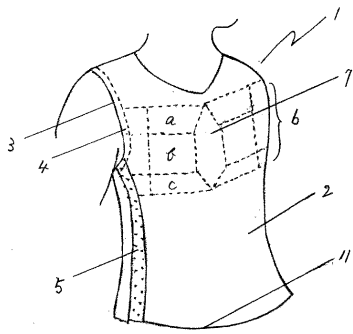
【 解決手段 】 前身頃には、胸部全体を覆う胸部パッドを配し、胸部パッドの中央には、胸部中央パッドを結合させて段差を解消している。左右両脇の下には、前身頃調整部と、

50

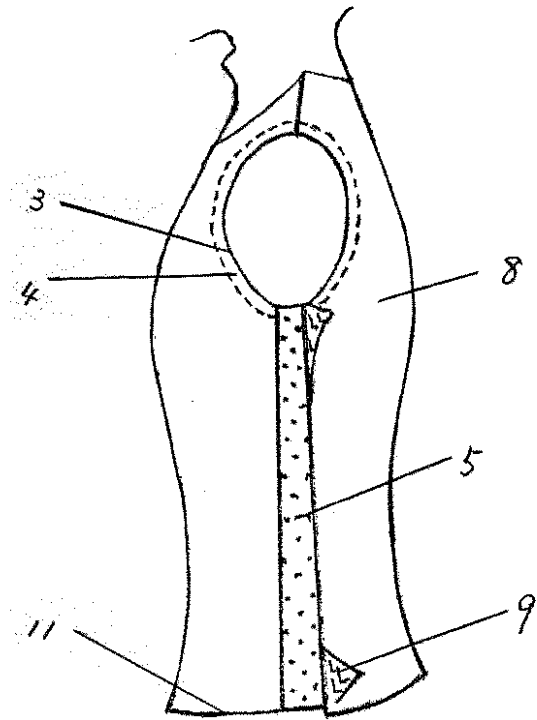
後身頃調整部を設け、それぞれに面ファスナーループ側と面ファスナー鉤側が結合されており、体形の補正と着脱はこの調整部で行う。また、これまで胸を隠すため猫背がみだつた姿勢を正すため、背面にはパワーネットを配し、堂々と闊歩できる事を可能とした。

【選択図】図1

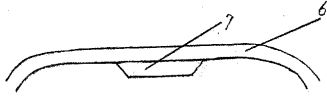
【図1】



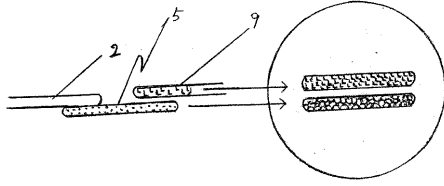
【図2】



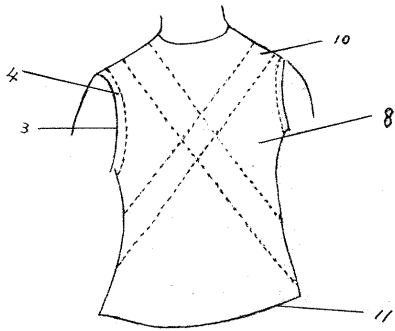
【図3】



【図4】



【図5】



フロントページの続き

- (56)参考文献 実開昭54-123010(JP,U)
実開昭56-003203(JP,U)
特開2008-261077(JP,A)
特開2014-198912(JP,A)
特開2005-002505(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A41B 9/06
A41C 1/00 - 5/00
A41D 13/00 - 13/12